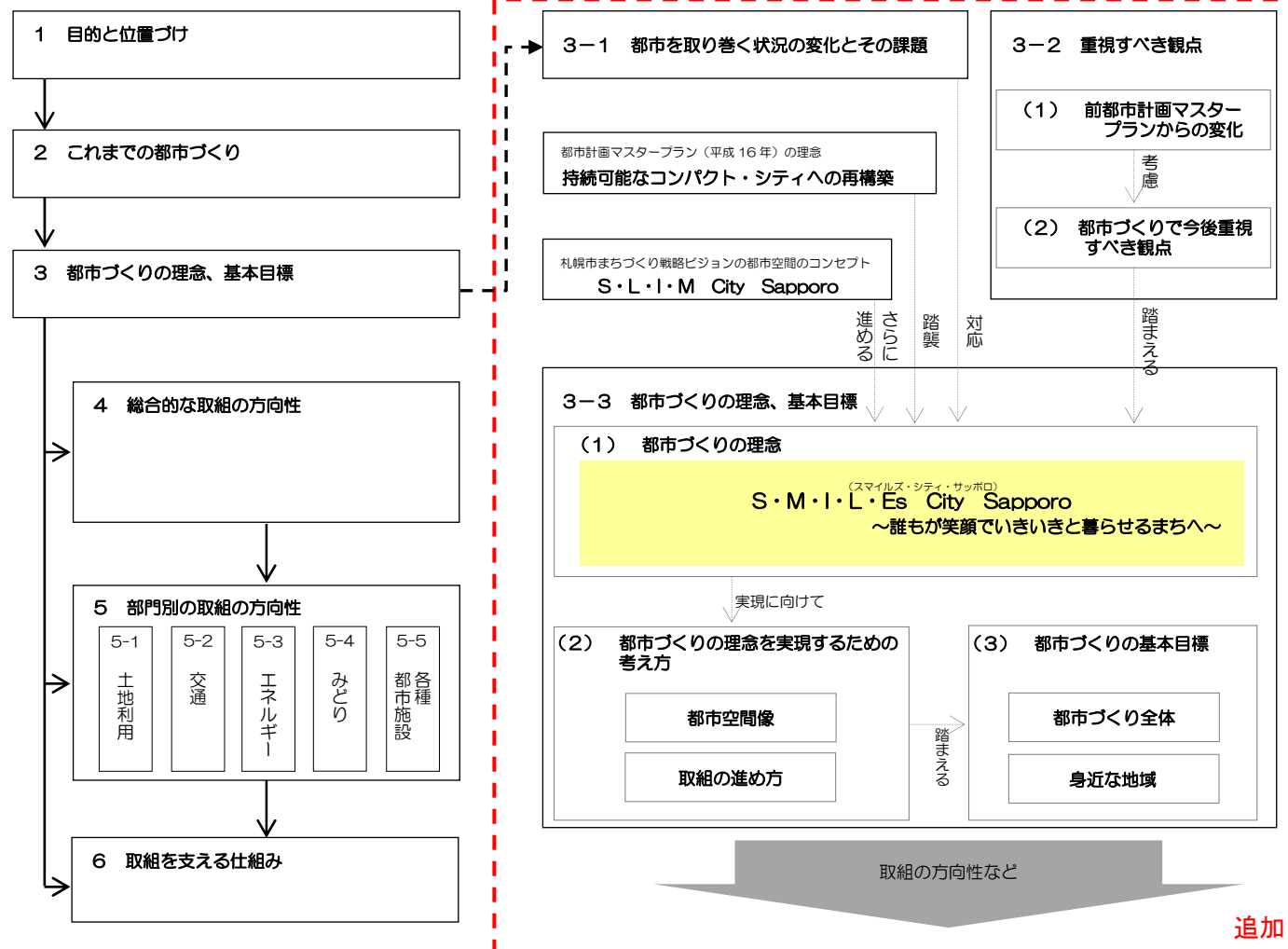


※未定稿

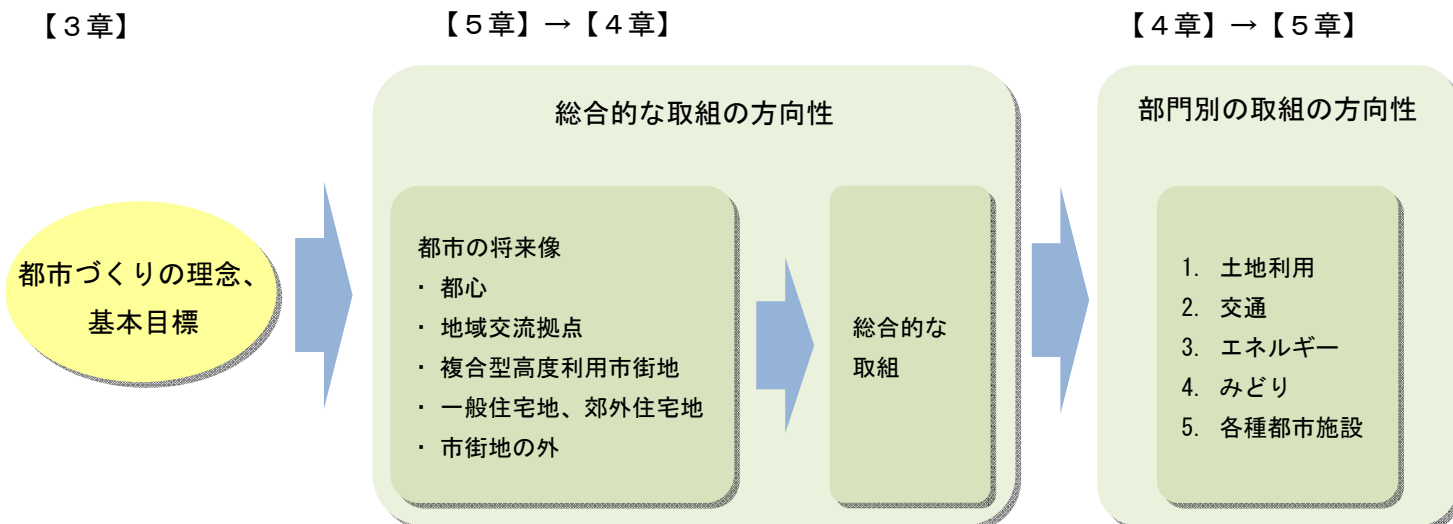
1. 「1-5（1）計画の構成」に考え方の記載を追加（P10~11）

「3 都市づくりの理念、基本目標」について、理念や基本目標につながる考え方をまとめたものを追加。



2. 「総合的な取組の方向性」と「部門別の取組の方向性」の構成を変更

前回資料では、「4 部門別の取組の方向性」、「5 総合的な取組の方向性」の順番だったが、3-3で掲げている基本目標の実現のための総合的な取組を先に示し、かつ都市の将来像を記載することにより、市がどのような都市を目指して戦略的に取り組もうとしているのか、具体的にイメージしやすい構成に変更。



3. 「総合的な取組の方向性」に将来像の記載を追加（P35~52）

都心、地域交流拠点、複合型高度利用市街地、一般住宅地・郊外住宅地、市街地の外の区分ごとに、都市の将来像の記載を追加。

将来像（都心）

- ▶ 世界に誇ることができる環境性能と防災性能を備えた持続可能性が高い都心が形成されています。
- ▶ 都心の機能や魅力の向上に向けて、民間企業やまちづくり組織などが主体となった都心のまちづくりが進められています。
- ▶ 札幌の資源や資産を生かして、新たな活動や産業を創造することができる場が創出されています。
- ▶ 札幌らしい魅力的なライフスタイルが実現しています。
- ▶ 国内外からヒト・モノ・投資を呼び込み、札幌はもとより北海道の経済を支えています。

① 都心

将来像（地域交流拠点）

- ▶ 多様な都市機能の集積や拠点へのアクセス性の向上、冬でも快適な歩行空間の充実などにより、利便性が向上しているとともに、多くの人を訪れることで様々な交流やにぎわいが生まれています。
- ▶ 他の拠点においても機能強化や魅力向上に向けて、優先的に取り組んだ拠点を参考にしながら具体的な検討が行われています。
- ▶ 既存のエネルギーネットワークがある拠点では、老朽化した建物の建替え更新によるネットワークへの接続が行われ、さらに周辺への拡充について具体的な検討が行われています。

② 地域交流拠点

将来像（複合型高度利用市街地）

- ▶ 地下鉄駅の周辺を中心に集合型の居住機能や生活利便機能が集積し、人口密度の維持または増加が図られています。
- ▶ 集合型の居住機能の立地にあわせて、歩道部分の確保など歩きやすい歩行者環境の整備が進んでいます。
- ▶ 集合型の居住機能の立地などにより人口が増えている地域では、公園の整備など、オープンスペースを有効活用することにより、みどりが確保されています。
- ▶ いくつかの路面電車の停留所周辺では、地域とともに魅力を向上するための指針を策定し、それに基づいて景観にも配慮したまちづくりが進んでいます。

③ 複合型高度利用市街地

将来像（一般住宅地・郊外住宅地）

- ▶ 小学校の建替えに合わせたまちづくりセンターや児童会館などとの複合化が進み、地域コミュニティ拠点として、子どもからお年寄りまで幅広い世代間の交流が行われています。
- ▶ 戸建住宅が多く立地しているところにも店舗やクリニックなどの生活利便施設が立地し、自家用車に頼らなくても生活できる環境が整っています。
- ▶ 危険な空き家の除却や住民の流入を促すような空き家の利活用など、居住環境の維持・向上につながる取組が進んでいます。

④ 一般住宅地、郊外住宅地

将来像（市街地の外）

- ▶ 行政、市民、企業が一体となって様々な制度を活用することにより、みどりの保全・創出が図られています。
- ▶ 市街地の外の高次機能交流拠点周辺では、地域の意向を取り入れながら拠点周辺の魅力向上を促す取組を進めることで、多くの人が集まり、交流やにぎわいが生まれています。

⑤ 市街地の外

4. 「総合的な取組の方向性」のうち、地域交流拠点に拠点ごとの記載を追加(P44~46)

※未定稿

17か所ある地域交流拠点のうち、優先的に取り組む4か所について個別の記載を追加し、その他13か所については、ケースごとに整理しそれぞれの方向性を記載。

新さっぽろ

現状	大規模な商業機能や公共機能などが古くから集積しているとともに、JR・地下鉄・バスターミナルにより形成された交通結節点として、高い利便性が保たれています。
方向性	平成27年(2015年)3月に策定した「新さっぽろ駅周辺地区まちづくり計画」に基づき、市営住宅余剰地の活用などを柱として、多様な機能の集積や既存機能との相乗効果による、にぎわい溢れる拠点の形成を目指すとともに、広大な後背圏の生活を支える拠点として魅力あるまちづくりを推進します。

真駒内

現状	駅前には市有施設が集積し、生活拠点としての役割を果たしていますが、それぞれ老朽化が進みつつあります。また、真駒内地域を含め、南区全体で人口減少、少子高齢化が進行しており、地域全体の魅力を高めるためにも、拠点の機能等を向上する必要性が高まっています。
方向性	平成25年(2013年)5月に策定した「真駒内駅前地区まちづくり指針」の実現に向け、市有施設の建替えを契機に、周辺地域と連携し、駅前地区を中心とした滞留・交流空間等の充実とともに、南区全体の魅力向上に資する拠点の形成を図ります。

篠路

現状	鉄道により東西市街地が分断されていることに加え、駅東側の弱い社会基盤施設、土地の低利用などの課題を抱えており、駅を中心とした拠点の整備が必要となっています。
方向性	平成26年(2014年)3月に策定した「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」に基づく土地区画整理事業や鉄道高架事業などの社会基盤整備を契機として、拠点としての機能・魅力向上に向けて取り組みます。

清田

現状	拠点の中心には区役所・保健センター・消防署・図書館が備わった複合庁舎が立地し、その周辺には商業施設や病院などの機能が集積しています。また、清田区には軌道系公共交通機関がなく、最寄地下鉄駅までのルートを中心にバスネットワークが形成されています。
方向性	当面は、バス待ち環境の改善など、公共交通サービスの利便性向上に努めます。将来的には、拠点機能の向上のために、有効的な取組を展開していきます。

公共施設等の建替え更新型		
ケース1	現状	<p><b>【琴似】</b> 多様な都市機能が集積しているとともに、バスターミナルが備わった地下鉄駅とJR駅が近接しており、高い利便性が保たれています。周辺には区役所等の公共施設が立地しているほか、地域のまちづくり活動などにより、まちづくりの機運が高まりつつあります。</p> <p><b>【白石】</b> バスターミナルがあり交通利便性の高い拠点であるとともに、平成28年度には、白石区役所・区民センターなどが複合した白石区複合庁舎や、庁舎と地下で接続される大型民間施設が供用開始となり、利便性の向上が期待できます。</p> <p><b>【北24条】【栄町】【光星】【月寒】【福住】</b> 拠点を中心に多様な都市機能が一定程度集積していることに加え、北24条や福住にはバスターミナル、栄町にはバス待合所と駐輪場が備わった交通広場があり、利便性の高い拠点が形成されています。また、北24条、光星の周辺には区役所等の公共施設が立地しています。</p>
	方向性	区役所や公営住宅等の公共施設や大規模民間施設などの建替え更新の動きがみられる拠点では、これらをきっかけとして地域のまちづくりに発展できるよう、地域住民や事業者などとまちづくりの方向性を共有し、施設整備とまちづくり活動の一体的な取組が図られるよう働きかけます。
	まちづくりの必要性重視型	
ケース2	現状	<b>【麻生・新琴似】</b> 地下鉄始発駅である麻生とJR新琴似駅が近接し、後背圏につながるバスも充実しており、交通利便性の高い拠点が形成されています。また、周辺には病院などの医療機能が集積しています。
	方向性	地域課題の解決に向けた取組などを行う必要がある拠点では、その動きに合わせながら民間開発などの誘導も視野に入れたまちづくりを展開します。
ソフト施策型		
ケース3	現状	<p><b>【宮の沢】</b> 地下鉄駅と接続されているバスターミナルや大型商業施設、市有の教育文化施設などが立地しており、利便性の高い拠点が形成されています。</p> <p><b>【手稲】</b> 拠点の周辺には、大型商業施設が立地しているほか、区役所や体育館、図書館などの公共施設が立地しており、駅を中心に多様な機能が集積しています。</p> <p><b>【大谷地】【平岸】【澄川】</b> 拠点を中心に一定の都市機能が集積しているほか、大谷地にはバスターミナルが備わっており、利便性の高い拠点が形成されています。</p>
	方向性	当面、施設の建替え更新などの動きがみえない拠点では、町内会や商工会、地域の任意団体などが行うまちづくりの継続的な取組を通じ、地域コミュニティや商店街などの活性化を図るとともに、まちづくりの機運を醸成します。